

迦葉山三世天山見亮大和尚開創 五百年の古寺 利根沼田横道三十三観音霊場 十八番札所

石尊山 観音寺

〒378-0074 群馬県沼田市下発知町332
TEL. 0278-23-9410
E-mail: info@kan-nonji.com
URL: http://www.kan-nonji.com

— 号外 —

2024年8月16日 発行

結制

Kannon-ji Temple



令和六年六月四日・五日に、結制上堂・首座法戦式が厳肅に執り行われました。この儀式は、曹洞宗における最高の出世修行として長い歴史の中で受け継がれてきたものであり、石尊山観音寺の歴代住職の信念と、檀信徒の皆様のご尽力の賜物です。心より深く感謝申し上げます。

私が観音寺の第三十一世住職として晋山式を行ったのは、今から十五年前の平成二十二年十月のことでした。古来より「時節因縁」という言葉がありますが、いかに歴史ある立派な寺院であつても、因縁が熟さなければ成就することはありません。檀信徒の皆様は、この日のために幾年もの努力を惜しまず、住職を支え、寺檀和合に努め、菩提寺の護持と隆盛に貢献されてきました。改めてそのご尽力に深い敬意を表します。

大和尚という肩書きをいただき、重責を担う立場となりましたが、観音寺を守り続けた歴代住職の遺徳と寺の山風、そして支えてきた檀信徒の皆様と、そのご先祖様に思いを馳せ、今後も法体堅固にて精進してまいる所存です。この度、結成の様子を紹介した「かんのん号の号外」を作成いたしましたので、ぜひご覧いただければ幸いです。

しゅそ にゅうじしき 首座入寺式

曹洞宗には、夏と冬それぞれ九十日間、外部との接触を断つて厳しい規則のもとで修行する「安居」という期間があります。「結制」とは、この修行に入ることを意味します。首座入寺式は、この結制安居の修行に際して、修行僧のリーダーである「首座」を任命する儀式です。

今回、首座に任命された清岸院徒弟の井上大隆上座は、堂内を巡って役職の和尚様方に挨拶を行った後、文殊菩薩に礼拝焼香を捧げました。また、境内を守護する「土地御伽藍神」に対し、この修行が無事に成就するよう祈念しました。



ほんそくはいやくぎょうちゃ 本則配役行茶

「首座」を任命すると、「行茶」という茶礼が執り行われます。ここでは、結制を円満に遂行するための僧侶の役割を読み上げ、「どうぞご随喜、ご加担を賜りますように」と、お集まりいただいた方丈さま方にお願いをします。さらに、翌日に行われる「首座法戦式」の問答の主題が発表され、その要点について、大本山永平寺副貫首である迦葉山山主老師から提唱をいただきました。



けっせいじょうどう 結制上堂

「上堂」とは、住職が本堂の須弥壇に上がり、ここで大問答を行う儀式です。まず、今日の場に立てることへの深い感謝を表し、大本山永平寺副貫首である羽仁素道大老師から自らの修行の成果を認めていただきます。これにより、住職としてさらに仏法を広め、檀家衆を教化するための知識と見識を示すことができます。

大問答は伝統に則って行われ、この大問答を通じて、一人前の僧侶としての地位を確立し、和尚から大和尚へと進む重要な一歩を踏み出すことができました。



しゅそ ほっせんしき 首座法戦式

首座法戦式は、首座が修行僧たちと激しい問答を交わす儀式で、仏法や修行の境地を問答を通じて検証し、首座としての力量を示す場です。人生で最も緊張する瞬間と言っても過言ではありません。この重圧を乗り越え、問答を終えて初めて首座として認められるのです。僧侶として歩む上で、誰もが避けては通れない重要な関門です。

当日は、首座大隆上座は「達磨廓然」について問答を交わし、迫力ある説破を披露しました。また、弁事は河野喜心（小学二年生）・正覚寺徒が努めました。



く り ら っ け い ほ う よ う 庫裡落慶法要

庫裡の落慶法要を執り行いました。天気にも恵まれ、多くの檀信徒の皆様が参列し、盛大な法要となりました。観音寺の新しい庫裡は、信徒の皆様の温かい支援と寄付により完成したもので、地域社会との結びつきを象徴しています。法要では、住職による感謝の言葉とともに、読経が行われ、参加者一同の心が一つになりました。

新しい庫裡の落成により、観音寺はこれからも地域の心の拠り所として、一層の発展を遂げることでしよう。



御礼の言葉

六月四日(火)・五日(水)、石尊山観音寺にて結制および庫裡の落慶法要を無事に執り行うことができました。当日は天候にも恵まれ、多くの檀信徒の方々にご参列いただき、誠にありがとうございました。皆様のご支援とご協力により、この新しい庫裡が完成し、盛大な法要を迎えることができましたことに、深く感謝申し上げます。

結制の儀も無事に執り行うことができました。結制とは、修行僧が一定期間、一つの場所にこもって修行に専念する行事です。この行事を通じて、心を一つにし、修行に精進することを誓いました。

また、庫裡の建設にあたり、総代長阿部三郎様をはじめ、総代の木樽保夫様、松井敦夫様、多くの方々からの温かいご寄付とご協力を賜り、無事に完成することができました。この庫裡は、檀信徒と地域の方々との信仰とご支援の結晶であり、観音寺の新たな歴史の一ページを刻むものです。これからも地域の心の拠り所として、観音寺をより一層発展させていく所存です。共にこの場で祈りを捧げることができ、心より感謝申し上げます。これからも石尊山観音寺は、信仰を支え、地域の安寧と繁栄を祈る場所としてあり続けます。ご期待に応えるべく、日々精進してまいりますので、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

当日の法要にご参列いただきました方々に、改めて感謝の意を表し、心よりお礼申し上げます。これからも共に、仏の教えを実践し、地域社会の発展に寄与してまいります。ありがとうございました。